

●第5次豊郷町総合計画作成に向けた町長・教育長ヒアリングの要点記録

日 時：平成30年10月12日（金）

午前10:00～

場 所：豊郷町役場

別館2階 町長室

1. 出席者

伊藤定勉豊郷町長、堤清司豊郷町教育委員会教育長

【事務局】清水純一郎課長、神谷節子課長補佐

【日本都市計画研究所】久末地域計画室長、岡本主任研究員、松原研究員

2. 議題

(1) 第5次豊郷町総合計画策定に向けた第3回審議会までの経緯について

久 末：過去に審議会を3回開催していただき、現状と課題に関する各種調査の報告、それに基づいて、委員の皆様から意見をいただいている。本日、町長、教育長にご指示、ご意見をいただき、素案に反映、第4回審議会でご提示する流れとして進めさせていただきたい。

(2) 各種基礎調査結果の要点について

<各種基礎調査結果の要点…資料1の説明>

伊藤町長：

○周辺と比較して、豊郷町は地域とのつながりの希薄化が進んでいる。

○活動団体に入らないなど消極的になっている。

○老人会組織の崩壊の可能性があることや、すでに、婦人会、青年団もなく、地域集落の機能が保持できていないところもある。しかし、PTAの活動は十分にあるようだ。

堤教育長：

○子ども会に入ることによって地域コミュニティへの参加機会になる。

○若い世代は自治会に入りたいとは思わない人がいるかもしれないが、子どもが生まれ、年齢を重ねていくなかで、勤務先での自分のポジションなど、組織の中の位置付けを理解してくることで、団体活動への理解も深まっていくのではないだろうか。

伊藤町長：

○シルバー人材センターに登録されている方も減少している。

豊郷町では、草刈りや剪定などの活動しかなく、違う形での活動場所があれば良いのだが。

○豊栄のさとは改修すると5～6,000㎡と広い場所になる。ドクターイエローなどの新幹線を同じ高さの目線で見られる高台を作る、芝生広場で親子で遊べるようにしてみるなど、さまざまな年齢層が楽しめる場所としてコンペティションを実施するのも良いのではないかと思います。

○近江八幡市では、定年退職された男性が「おやじ連」と題したグループを作り、長年の活動が評価されているようだ。サークルのような形ができれば、イベントへの参加などで繋がりができるのではないかと思う。

○福祉有償運送をしている地域は、町が保険面で援助をしている。高齢者を活用して、地域の中で活動できる組織があると、活力がでるのではないか。

堤教育長：

○豊栄のさとは、電気やトイレ設備を整備すれば、芝生でキャンプを楽しむのではないか。その管理をシルバー人材センターに任せてみるなどすれば、利用価値も上がるのではないだろうか。

久 末：全国でも模索中の状況だが、高齢者の生活支援を高齢者自身が担う、例えば、移動支援、食事支援、話し相手などを対象として、シルバー人材センター、農協、老人クラブが活動する事例があるようだ。参考事例を挙げて、今後の審議会で話し合っただけのように準備をしていくことにする。

(3) まちづくりの課題と基本方針について

<まちづくりの課題と基本方針の要約…資料2の説明>

伊藤町長：

○中学生の意見を取り入れて、「一生青春」のほうがいいと思う。

堤教育長：

○「一生青春」のほうがいいインパクトが強いのではないか。

○施策として重点的な内容がすぐ分かるように、豊郷町の独自性が前面にでて良いのではないか。

例えば…豊郷と言えば、どんな町かが分かるような内容になれば良いと思う。

久 末：重要となる項目は、地域共生社会の実現と思うのだが、実現していけば、子育て環境の良さやまちの魅力発信、産業振興など、すべてが円滑に動いていくのではないかと考えている。

堤教育長：

○同感である。地域の間関係が希薄化するなかで、今後、「共助の精神」が地域づくりの基本になってくるのではないだろうか。地域共生社会を前面に出すことは良いことだと思う。

伊藤町長：

○どの世代も、元気で明るく楽しい日々を送ることができる社会が一番良いことである。

○災害を受けられた地域では、協力し合い、一から絆を作り上げていく精神ができあがっていくようだ。豊郷町は穏やかなまちであるがゆえ、原点に戻る時期になったのかもしれない。

久 末：事例や提案を含めて、審議会では素案の検討をしていただきたいと思いますと考えて

いる。特に、地域福祉、コミュニティと、さらに、まちの特徴の一つであろう子育て環境の良さを生かすことを前面にだすことも一つと考える。

伊藤町長：

○地域で高齢者を見守ることを含めて、安心して住むことのできるまちづくりにつながれば良いと思う。

堤教育長：

○言葉としての「老人会」に抵抗があるのではないかと。国が名称を変えていく方が良いのではないかと。

○「未来の年表」という本の中で、2024年には国民の3人に1人は65歳以上になるとされている。人生100年と言われる中、65歳で高齢者とされる捉え方はいかがなものなのか。

例えば…豊郷町の考えは、65歳はまだ高齢者ではないですよ、という発案もあると思う。

伊藤町長：

○中学生が言っているように、一生青春はその通りだと思う。そういう気持ちを持つことで、高齢者も元気に生活していくことができるのではないかと。

○島根県の邑南町では、町が主体となり、「おおなんビズ」を開始している。専門知識がある指導者を全国から募集し、センター長にして、仕事作りセンターの中で起業促進をしている。

例えば…石見豚を無菌室で飼育、A級グルメとしてブランド化し、銀座から招いたシェフが町の施設で料理を振る舞う場を作り、食の学校を経営して、招いたシェフの料理に郷土料理をメニューに加え、他都市に出店したり、デパートに出店する流れを作ってIターンを促しているようだ。

○また、一年間に1人一万円を町内で買い物に使う活動で町にお金が落ちる仕組みを作っている。人口12,000人として1億2千万円が町内を循環し、起業家の創出にもつながっている。

豊郷町の場合、大型商業施設などで住民が使うお金が多く、町内で循環せず外部へ流出しているのが実情、困難とは思いますが町内循環のシフトの模索と人へのサービスを生み出せば、町にお金が落ち、地域循環するのではないだろうか。

久末：本日、ご指示、ご意見をいただきました内容を踏まえ、素案作成を進めさせていただく方向で良いか。

伊藤町長：町の指針として作成を進めてください。

清水課長：10月23日に全管理職で会議し、第4回審議会につなげる予定。

午前11時30分終了